

常任理事就任のご挨拶

常任理事

北海道大学医師会

北海道大学病院

リハビリテーション科 教授

生駒 一憲



このたび3月11日に開催されました第137回北海道医師会定時代議員会において、常任理事に選出いただきました。退任される小山司常任理事の補欠として選出いただいたものです。このような身に余る大役を仰せつかり緊張と不安でいっぱいですが、会員諸先生および関係者の皆様にご迷惑をおかけしないように、精一杯務めさせていただきますと思っております。

私は昭和58年に奈良県立医科大学を卒業し、母校の神経内科に入局いたしました。神経疾患の診療を続けるうちにリハビリテーションの重要性に気づき、くしくも同じ職場におられた故眞野行生先生(のちに北海道大学リハビリテーション医学初代教授)にご指導いただき、リハビリテーションの道に進みました。平成13年に北海道大学リハビリテーション医学分野に赴任いたしました。今まで、静岡に3年間、米国に2年間居住した以外は生まれたときからずっと奈良県に住んでおり、雪で覆われた大地を見るのは初めての経験でした。しかし、寒さはあまり気にならず、非常に住みやすい土地柄であること

を実感しております。平成18年4月に北海道大学病院リハビリテーション科を担当することになり、現在に至っております。

私が北大に赴任した年に、厚生労働省の高次脳機能障害支援モデル事業が始まりましたが、私は発足時からこの事業にかかわって参りました。現在もこのモデル事業の流れを汲む高次脳機能障がい者支援事業(実施主体は北海道)に支援拠点機関として参加し、高次脳機能障害者の支援に努めております。

高次脳機能障害は脳外傷後などに起こる記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害を主症状とする障害で、今まで注目されず十分な支援が行われてこなかった障害です。高次脳機能障害者の社会復帰を促進するためには、多職種・多施設・多地域を結ぶ支援ネットワークを医療関係者のみならず、福祉関係者や一般住民の協力も得て構築し、高次脳機能障害者を社会全体で支えていく態勢をつくることが不可欠です。

私はこの事業を推進していく中で、道内各地の医療の実情を知る機会をいただきました。もちろん医療過疎の問題は、高次脳機能障害の領域に限ったことではありません。医師不足の問題とともに改善すべき重要課題であると実感しております。

学会活動では、日本リハビリテーション医学会、北海道リハビリテーション学会等で役員を務めており、学会の活動には多少なりとも知識はあるつもりですが、医師会の活動は何もかも未知の領域です。至らぬ点が多々あるかと存じますが、会員の先生方にはご指導、ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

電子メールによる会員への情報提供について

—メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様へ送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp